

横浜国立大学経営学部 Q&A (2026年 6 月作成)

入試の詳細は変更になる可能性があります。最新の情報は本学ウェブサイトをご確認ください。

この他にご不明な点等があれば、気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】横浜国立大学経営学務係 int.keiei@ynu.ac.jp 045-339-3663・3664

教育・学生生活

Q 経営学部ではどのような勉強ができますか？

A 現代の社会では、様々な活動は主に組織によって行われています。その組織が成果を上げ、社会に貢献するための考え方や方法を、経営学部では学びます。社会の課題やニーズを捉え、それを事業に転換し、新たな商品やサービスを提供する。この一連の流れをよりよく行うための組織運営の方法を学ぶのです。経営学部では、今日の高度に複雑化した社会の中で、情報を的確に分析・判断し、それを社会課題の解決につなげ、国際社会に貢献することができる人材の育成を目指しています。そのために、2 年次の後半から始まる少人数のゼミナール制度、語学教育、情報教育を重視し、その充実を図っています。

Q 経済学と比べたときの経営学の特徴は何ですか？

A 一言で言うと、経済学では社会を学び、経営学では会社を学びます。経済学は社会経済現象全体を対象としているのに対して、経営学は社会経済現象の中でも組織の活動に焦点を当て、組織が成果を上げるための方法を学ぶ学問です。そのため、経済学に比べ、より実践的な学問と言えます。具体的には、社会の課題や顧客のニーズをどのように捉えるか(マーケティング)、どのような商品・サービスをどのような方法で提供するか(戦略)、どのように従業員の満足度を高め、やる気を起こさせるか(リーダーシップ)、公正な会計制度をどのように実現するか(アカウンティング)などを学びます。

Q 経営学部と商学部はどう違うのですか？

商学部も経営学部も、ともに企業を中心とする組織の経営を学ぶため、概ね経営学分野、会計学分野、商学分野等から構成されていますが、各大学によって強みを有する分野や焦点を当てる分野が異なります。本学経営学部の場合は、経営事象に数理的にアプローチして課題解決を図るマネジメントサイエンス分野を設定しているほか、グローバル化(国際化)に焦点をあてたグローバルビジネス分野を充実させています。さらに、データサイエンスやサステナビリティといった経営学における今日的な応用領域を教育・研究の内容に取り込んでいるところも特徴です。いずれにしても、商学部と経営学部の内容は大学によって異なるため、各大学の教育内容を十分に確認してください。

Q 横浜国立大学の経営学部ならではの教育プログラムを教えてください。

A 一般プログラムの1年生は、「経営学リテラシー」という演習科目が必修です。「経営学リテラシー」では、経営学を学ぶ上で礎となるスキルや知識の取得を目指すとともに、ビジネスをめぐる課題を局所的ではなく、総合的な視点から定義し、解決策を提案することのできる能力の養成を目指しています。この科目では、企業経営に関わるテーマについてグループワークを通じて研究発表を行います。一方、DSEP では、1 年次春からプロジェクトベースの少人数ゼミナールで課題解決能力を養い、並行して講義を通じてその解決に必要な経営学とデータサイエンスの基礎を学びます。また、2 年次春は1年生との共同プロジェクトでリーダーシップを養います。



Q 学生の男女比はどれくらいですか？ 留学生は多いですか？

A 2026年5月のデータでは、1,353名のうち489名(約36%)が女子学生です。留学生については、10か国・地域から36名を中国、韓国、マレーシア、ベトナム、ルーマニア、ジョージア、フィリピン、ミャンマー、タイ、台湾から迎えています。

Q 私立大学に比べて国立大学のメリットは？

A 授業料が安いことや^{*1}、専任教員1人当たりの学生数が少ない^{*2}ため授業やゼミを少人数で行えることなどが挙げられます。

*1 大学入学者に係る初年度学生納付金(単位:円)

	授業料	入学料	施設整備費	合計
横浜国大	535,800	282,000	—	817,800
私立大平均(法・商・経)	848,758	219,676	135,121	1,203,555

[出典] 文部科学省「令和7年度 私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額(定員1人当たり)の調査結果について」

*2 専任教員1人当たり学生数(学生数/教員数)

系統	設置者	学生数/教員数
経済・経営・商	横国経営学部	25.5
	平均	39.4

[出典] 朝日新聞×河合塾 共同調査「ひらく 日本の大学」2018年度調査結果。

横浜国大経営学部の数値は2018年5月1日現在の学生数(1,352人)/教員数(53人)で計算

Q 奨学金、納付金、授業料免除等について教えてください。

A 本学が扱う奨学金制度は、日本学生支援機構、地方公共団体および民間育英団体奨学金等があります。その他に給付型の学内奨学金(大澤奨学金、竹井准子記念奨学金、新入生スタートアップ支援金など)がありますが採用予定者は限られています。また、入学料・授業料の免除・徴収猶予の制度があります。奨学金及び授業料・入学料免除等の詳細は大学ウェブサイトまたは「横浜国立大学 大学案内 2027」P22「経済支援制度と生活費」等をご参照ください

[横浜国立大学ウェブサイト>学費・免除・奨学金](#)



Q 学生寮、家賃等について教えてください。

A 学生寮は、峰沢国際交流会館、大岡インターナショナルレジデンス、常盤台インターナショナルレジデンスがあります。それぞれの詳細は大学ウェブサイトまたは「横浜国立大学 大学案内 2027」P19「4.学生寮」をご参照ください。12か月の生活費の目安は下記のとおりです。



[横浜国立大学学生支援課ウェブサイト>学生寮](#)





Q サークルはどのようなものがありますか？

A 本学では、100以上のクラブ・サークルが、課外活動団体として届出しています。大学に届け出している団体の名前は本学ウェブサイトに掲載されています。また、届出団体以外のサークルも多数活動しています。

[横浜国立大学ウェブサイト>サークル活動](#)



入試

Q 経営学部に入るための入試は何がありますか？

A 次の表のとおりです。各入試の詳細は最新の入学者選抜要項をご参照ください。

入試種別	選抜方法等		主な出願要件・備考	
	一般 プログラム	DSEP		
一般選抜 前期	○	○	大学入学共通テスト・個別学力検査	個別学力検査の教科は数学または外国語。 DSEP 希望者は数学を選択。
一般選抜 後期	○	○	大学入学共通テスト・個別学力検査	個別学力検査の教科は数学および外国語。
学校推薦型選抜	○	—	小論文・面接	調査書の学習成績の状況 4.3 以上
帰国生徒選抜	○	—	小論文・面接	帰国生徒が対象
YGEP-N1 (私費外国人 留学生入試)	○	—	面接	日本留学試験 8 割以上 TOEIC 又は TOEFL

Q 学校推薦型選抜及び帰国生徒選抜では何を評価しますか？

A 小論文では、経営・経済を中心とした社会科学に関するテーマ(日本語)についての理解度・思考力及び表現力を評価します。面接では、複数の面接員による個人面接で志望動機と企業経営への興味や学問に対する姿勢などを評価します。

Q 一般選抜の自己推薦書の具体的な内容はどのようなものですか？

A 具体的な内容は 11 月中旬公開予定の募集要項でお知らせします。前年度募集要項にも記載があります。

Q 自己推薦書の配点はどのように行われますか？

A 経営学部では、入学者の選抜は大学入学共通テストの成績と調査書・自己推薦書に相当する課題の提出物を総合して行います。自己推薦書については、入学者選抜要項に記載のとおり配点はありません。

Q 理系でも受験できますか？

A 受験できます。大学入学共通テストで必要な地歴公民は 1 科目で、個別学力検査では国語・地歴公民は課していないので、理系の勉強をしてきた方でも問題ありません。経営学部には統計学など数学を用いる科目や、応用科目を修得する際に、線形代数や微分積分の修得を条件とする科目も多数ありますので、経営学部においても数学の知識は重要となります。

Q 過去の入試の倍率、合格者平均点、最高点、最低点はどのようになっていますか？

A 次の表を参照してください。過去 3 年分の情報は、大学ウェブサイトでご確認いただけます。



令和8年度 横浜国立大学経営学部入学者選抜実施状況

入試種別	募集人員	志願者数			受験者数 (A)			合格者数 (B)			入学者数			倍率 A/B
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
一般選抜 前期日程	148	424	241	665	414	225	639	135	76	211	122	67	189	3.0
DSEP 前期日程	10	49	15	64	49	15	64	11	1	12	9	1	10	5.3
一般選抜 後期日程	78	574	208	782	231	78	309	58	18	76	48	14	62	4.1
DSEP 後期日程	4	68	23	91	32	11	43	6	0	6	4	0	4	7.2
学校推薦型選抜	49	78	83	161	78	82	160	18	35	53	18	35	53	3.0
帰国生徒選抜	若干名	47	36	83	44	32	76	2	6	8	1	4	5	9.5
YGEP-N1 (私費外国人留学生入試)	8	17	5	22	9	2	11	7	1	8	5	1	6	1.4

令和8年度 横浜国立大学経営学部一般選抜の最高点、最低点、平均点

入試種別	満点	最高点	最低点	平均点
前期日程	1,350	1,136.30	860.00	984.28
後期日程	900	760.48	627.88	659.08

[横浜国立大学ウェブサイト>過去3年分の入試結果情報](#)



Q 過去問はどのようにすれば入手することができますか？

A 一般選抜及び特別選抜の過去3年分の問題については一般社団法人日本著作権教育研究会のウェブサイト「サイバーカレッジ(高大連携大学入試過去問共同利用プログラム)」で閲覧することができます。それ以前の問題については公開していません。

[サイバーカレッジウェブサイト>横浜国立大学の過去問](#)



就職

Q 卒業後の進路はどうなっていますか？

大半の卒業生が一般企業に就職します。就職先の業種としては、メーカー(製造業)、金融機関(銀行、保険、証券)、情報・通信関係(システム、通信会社)およびサービス業(不動産、コンサルティング、旅行関連ほか)が多くなっています。また、国や地方の行政機関(公務員、独立行政法人、国立大学法人など)に就職する方や、大学院進学(横浜国立大学大学院や他大学大学院)する方もいます。第一線で活躍している卒業生を迎えての就職セミナーも開催されています。令和6年度卒業生の主な進路は本学ウェブサイトをご参照ください。

[卒業生の就職状況\(所属別\) - 横浜国立大学](#)



Q 職業教育・キャリア教育のようなことはやっていますか？

A 一定期間企業などで研修生として働くインターンシップ制度があり、最大4単位まで認められます。このほかにも、企業の経営者等が講師を務める「経営者から学ぶリーダーシップと経営理論」、「経営者が語るこれからの企業戦略・イノベーションと若者へのメッセージ」、「グローバルビジネス実践論」、「アントレプレナーシップ論」などの科目や、本学卒業生の社会人が講師を務める「社会における実践経験」などの授業があります。



Q 教員免許の取得は可能ですか？

A 経営学部では教員免許は取得できません。

Q 公認会計士または税理士になれますか？

A 経営学部には会計学を専門とする教員が多くおり、会計関連科目が充実しています。国家試験対策は専門学校に通うなど別途必要になりますが、講義とゼミナールでの学習は会計プロフェッショナルになるための必須のスキルを身に着ける上で役立ちます。毎年、20 名程度が公認会計士試験に合格していますが、在学中に合格する学生も多数います。税理士も多く輩出しています。公認会計士や税理士として活躍している OB/OG は非常に多いので、本学部では、横浜国大会計人会を組織し、OB/OG と在学生との教育・研究交流を促進しています。

DSEP(データサイエンス教育プログラム)

Q DSEP ではどのような人材育成を目指していますか？

A 自ら、またはデータサイエンティストや AI が導き出した分析結果をビジネスにどう活用するかを企業に提言し、ビジネスをリードできる人材を育成します。

Q DSEP の特徴は何ですか？

A ①入学直後の 1 年次春から始まる 2 名の指導教員によるデータ分析を活用したプロジェクトベースの少人数ゼミナール、②データサイエンスに携わる企業との連携講義、③インターンシップやデータ解析コンペなど、実践に重きを置いたビジネス・リーダー育成教育が特徴です。

Q 経営学部 DSEP は、経営学部の一般の教育プログラムと比べて、授業の取り方などはどのように異なりますか？

A ①一般プログラムと共通する経営学部科目と並行して、データサイエンス科目を段階的に履修すること、②1 年次からデータサイエンスに関する少人数ゼミナールに参加できることなどが異なります。

Q 産学連携科目(データサイエンス実践科目)とはどのような科目ですか？

A データサイエンス企業でのインターンシップや、データ解析コンペへの参加などで、実践によって知識を深めていく科目です。

Q 高校では理系選択で、文系科目の勉強はあまりしてきませんでした。経営学部の DSEP に入学した場合、経営学の授業について行くことはできますか？

A 問題ありません。これまでの DSEP の入学者にも理系出身者が多数います。これらの学生は、データサイエンスに関連する科目だけではなく、経営学領域の科目でも十分に学ぶことができます。

Q 2 年次以降のゼミナールの選択に制約はありますか？

A 制約はありません。なお、経営学部 DSEP では 1 年～2 年春学期まではデータサイエンス・ゼミナールに参加します。2 年秋学期以降は選考を経てゼミナールに入ることができます。この選考の際には、募集をしている経営学部全教員のゼミが選択肢になります。

Q DSEP の入学者選抜方法を教えてください。

A DSEP も、一般プログラムと同一の基準で、一般選抜によって選抜します。DSEP 志望の受験者については、一般選抜で合格となった者のうち、個別学力検査の数学科目上位成績者から合格者を選抜します。詳しくは入学者選抜要項および一般選抜学生募集要項をご覧ください。



Q DSEPを受験するには経営学部と経済学部のどちらの一般選抜を受験すればよいですか？

A 経営学部への入学を希望する場合は経営学部を、経済学部への入学を希望する場合は経済学部を受験してください。なお、経営学部では、DSEPにおいて、数理的思考を用いてビジネスにおける課題解決に貢献したい学生を募集します。

Q 経営学部の一般の教育プログラムと併願できますか？

A 一般選抜で志望できる教育プログラム(一般または DSEP)は 1 つに限ります。ただし、DSEP を志望した場合は、選抜の結果、一般プログラムの合格者になることがあります。なお、入学後に他の教育プログラムに変更することはできません。

Q 卒業後の進路はどのように想定されていますか？

A データを用いてビジネスを展開する企業(コンサルティング、情報通信、金融、商社、研究機関、製造業など)への就職を想定しています。もしくは学部・修士 5 年一貫教育プログラムによる大学院への進学を想定しています。

交換留学

Q 交換留学に参加できますか？

A 本学には 2025 年 12 月時点で 42 カ国・地域に 138 の海外協定校があり、うち、学生交流協定を締結している 36 カ国・地域 103 大学には、ご自身の努力次第で交換留学(基本的には半年か 1 年)に参加することができます。経営学部からは、例年、学内最多の 10~15 名の学生が交換留学に参加しています。

Q 交換留学に参加するにはどのような要件がありますか？

A 英語の場合は TOEFL iBT 72 以上(2026 年 1 月 21 日以降に受験した場合は 4 以上(1-6 のバンドスコア制)、IELTS 5.5 以上)の語学スコアが必要です。(応募時にスコアを保持している必要があります。)また、大学の成績についても、通算 GPA が 3.0 以上あり、渡航前に学部教育科目の必須科目を修得済みであることが求められます。交換留学に参加するためには、これらの条件を満たした上で、経営学部の教員による面接に合格し、学部からの推薦を得る必要があります。

Q 交換留学の場合、どのような費用負担がありますか？

A 派遣先大学に授業料を支払う必要はありませんが(留学中も本学に授業料を納入いただきます)、渡航費、教材費や滞在費は自己負担となります。成績や家計基準等の条件を満たせば奨学金が付与される可能性もあります。

Q 派遣先大学で取得した単位を卒業要件単位に算入することはできますか？また、留学しても 4 年間で卒業できますか？

A 派遣先大学で修得した科目が本学部の開講科目に相当する場合には、卒業要件単位に算入されます。それ以外の科目についても単位が認定された科目については履修実績が成績証明書に記載されます。また、留学前後の単位修得状況によっては 4 年間で卒業することも可能ですが、卒業まで 5 年を要することもあります。また、就職活動等の理由により、5 年間で卒業することを自ら選ぶ学生もいます。

Q 派遣留学先はどこになりますか？

A ヨーロッパ、北米、豪州、アジアの多数の大学に派遣実績があります。学生に人気があるのは、英語圏(アメリカ、イギリス、オーストラリア)の大学ですが、台湾や韓国などのアジア圏の大学や、非英語圏の欧州(ドイツ、イタリア、スイス、チェコ)に留学する学生も多数います。



Q 何年生で留学する学生が多いですか？

A 3年次で留学する学生が最も多いですが、2年次、4年次で留学する学生も少なくありません。なお、4年次での留学は就職活動との重なりを避けて半年間とすることが多いようです。交換留学の場合、派遣の半年以上前から募集が始まるので、派遣希望先大学のことを調べたり、必要な語学スコアを取得したりと、早めに準備を始めると良いでしょう。

Q 交換留学に関する詳しい情報は、どこを調べればよいですか？

A 本学グローバル推進課のウェブサイトには、交換留学を含む、短期から長期までのいろいろな留学プログラムの詳しい説明や留学体験談などが掲載されています。また、経営学部ウェブサイトにも、経営学部の交換留学に関する情報を掲載していますのでご覧ください。

[横浜国立大学グローバル推進課ウェブサイト>海外留学](#)



[横浜国立大学経営学部ウェブサイト>海外での学修](#)

